

進路のしおり

～時代の流れに身を寄せて～

この冊子は、県内の肢体不自由特別支援関係校が集まって、毎年編集発行されているものです。小学部に入學し高等部を卒業するまでの12冊の冊子をご覧になって、日々の、あるいは将来の豊かな生活を送っていただくようお願いしております。

今回は、東京パラリンピック開催年でもあるため前号に引き続きスポーツ・余暇関係のこと、基準該当サービスや新しい動きの共生型サービスについて、また、卒業生の社会での活躍の様子や親なきあとについて考えるということ等を掲載しました。これからの生活の参考にしたいだければ幸いです。



<目次>

スポーツ・余暇	P1～4
基準該当サービス・共生サービス等	P5～8
「働きたい」の実現	P9～10
卒業後の生活	P11～13
「親なきあと」を考える	P14～15
施設紹介	P16～19
用語解説	P20

「豊かな自然」

小学部5年 眞藤 元気さん
(埼玉県立宮代特別支援学校)

「この絵は、生物が流れに身を寄せて、のびのびと生きている様子を描きました。ぼくたちが社会に出る時も自然豊かで、好きな仕事ができるようなのびのびとした社会であってほしいです。」

- 埼玉県高等学校進路指導研究会特別支援教育部会肢体不自由特別支援学校小委員会
- 埼玉県肢体不自由特別支援学校進路指導研究会 ● 埼玉県特別支援学校校長会

パラリンピックが2020年に日本で行われること

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
スポーツ局競技運営部スポーツマネージャー（ボッチャ） 齋藤 保将

2013年に東京オリンピック・パラリンピックの実施が決定してから6年が経ちました。自分も学校を離れて組織委員会でボッチャの競技準備に関わるようになって2年になります。ここではパラリンピックとボッチャの紹介をして、みんながもっともっと東京2020大会に興味を持ってもらえるお話をしたいと思います。

《Paralympicの歴史》

パラリンピック*1は、1948年、イギリスのストークマンデビル病院で脊椎損傷者の治療の一貫として行われたアーチェリー大会に由来します。この大会が国際大会に発展して1964年に東京で行われることになった際、愛称として初めて「パラリンピック」という言葉が使われました。当時の「パラリンピック」の名称は、パラプレジア（対麻痺＝脊椎損傷者）のオリンピックという意味合いで使用されていました。しかし、より様々な障がいのある選手が参加するようになり、パラレル（並行する）オリンピックという意味に変化しています。2000年のシドニー宣言では正式にオリンピック終了後にパラリンピックが行われるようになりました。2024年のパリ大会からはオリンピックとパラリンピックのエンブレムも統一されることが発表されています。

《Bocciaとは?》

ボッチャは重い障がいのある方のためにヨーロッパで生まれたパラスポーツです。「ジャック」と呼ばれる白いボールに、赤・青それぞれ6球のボールを投げ合い、どれだけ近寄らせることができるかを競います。ボールを投げるのが難しい選手は「競技アシスタント」と呼ばれる介助者や「ランプ」と呼ばれる補助具を使って投球することもできます。緻密な戦略と状況に応じる対応力、一見劣勢と思いきや最後の一球で息を飲むような大逆転があるなど、

ボッチャはとても魅力的なスポーツです。

《パラリンピックとボッチャ》

パラリンピックでボッチャが初めて実施されたのは、1984年のニューヨーク大会からです（オリンピックはロスアンゼルス、ボッチャはエイルズベリーという町で実施）。この時の参加者は19人、5カ国の実施です。以後、様々な変遷を経て、東京大会では25カ国、116人の選手の参加が予定されています。



年	会場	参加人数	参加国
1984	エイルズベリー	19人	5カ国
1988	ソウル	34人	8カ国
1992	バルセロナ	42人	11カ国
1996	アトランタ	64人	14カ国
2000	シドニー	64人	14カ国
2004	アテネ	84人	18カ国
2008	北京	88人	20カ国
2012	ロンドン	103人	21カ国
2016	リオデジャネイロ	108人	23カ国
2020	東京	116人	25カ国想定

（ボッチャ競技の参加国と参加人数の推移）

《日本のボッチャ》

ボッチャが日本で話題になってきたのはリオパラリンピックで火ノ玉ジャパンが銀メダルを獲得してから、そして東京でオリンピック・パラリンピックが実施されることになったからということが相乗効果になったためです。それまでは特別支援学校の児童生徒はよく知っているボッチャも、世の中ではあま

り知られていないマイナースポーツでした。
1996年、アトランタパラリンピックが行われた時、日本選手が出場していない競技の一つとしてボッチャがニュースで紹介されました。時期を近しくして千葉県や埼玉県を中心としてボッチャの正式な規則を取り入れた大会をやろうという機運が流れ、1999年に第1回日本選手権が行われました。しかし日本で大会が始まった頃は用具や規則も海外の大会に出場した人の受け売りやまた聞きが多く、国際大会に出場しても予選落ちばかりでした。選手もまだまだパラリンピック出場なんて夢また夢と考えていて「いいなあ」って、つい口から出てしまう時期が長く続きました。

日本人がパラリンピックに出場できたのは、2008年の北京パラリンピックからです。ボッチャは国際大会で成績を出し、ランキングポイントをたくさん獲得することで出場権を得ることができます。この時は2005年のアジア地区の選手権でメダルを取ることができたことが、出場権獲得に大きく影響しました。北京パラリンピックでは、個人戦や団体戦のうち、団体戦のチームBC1/BC2と個人BC1及びBC2に出場できたので、この大舞台を経験として、次のロンドンパラリンピックでもチームBC1/BC2に加えて個人BC3も初出場、前回のリオパラリンピックではチーム戦BC1/BC2はついに銀メダルを獲得し、ロンドンに続いて出場した個人BC3では初めて勝ち星を上げることができています。来年に予定している東京パラリンピックでは、開催国として、チームBC1/BC2、ペアBC3、ペアBC4及び個人BC1、BC2、BC3、BC4と全てのイベントに選手が出場予定です。

《パラリンピックが東京にやってくる》

私は2000年に、障がいのあるボッチャ選手と一緒にシドニーパラリンピックの視察に行きました。

そのとき、その選手にとってパラリンピックのボッチャは日本の選手にとっては手の届かない夢の世界、私にとってもパラリンピックのボッチャは自分が普段関わっているボッチャの大会とは全く違う夢の舞台でした。それから20年、世代は交代しましたが来年の東京パラリンピックではボッチャは金メダル候補の競技と言われるまでになりました。私自身も様々な紆余曲折を経て、ボッチャ競技のスポーツマネージャー（競技責任者）として、パラリンピックに直接関わっています。

2020年8月、夢舞台が東京にやってきます。「夢はがんばればかなう」なんていうありふれたセリフは正直あまり好きではありません。その裏側には、夢半ばに負けてしまった人や、夢を捨てきれない人、夢として憧れている人、まさにこれから夢に向かって走りだそうという人・・・たくさんの人たちがあってこそその夢舞台だからです。

《パラリンピックを応援しよう！》

54年前のオリンピックを知っている人はいても、54年前のパラリンピックを知っている人ってどれだけいるんだろうと思いませんか？2020年の東京パラリンピックに立ち会うことのできる時代の1人として、テレビ



でも、スタジアムでも、どんな方法でもいいから関心を持ってください。「あのとき見たんだよ」「こんなことあったよね」そんな話題と一緒にできる一人に是非なってみませんか？

齋藤保将 — 1996年よりボッチャに関わり、韓国、香港、ポルトガル、カナダ等の大会遠征にコーチとして帯同する。2012年頃より日本ボッチャ協会にて審判統括、規則管理、大会運営を中心に活動する。現公益財団法人東京オリンピックパラリンピック競技大会組織委員会ボッチャスポーツマネージャー。

どこでも、つながる、ささえあう

埼玉県障害者交流センター

〒330-8522 埼玉県さいたま市浦和区大原 3-10-1

電話：048-834-2222 FAX：048-834-3333

メール：info@kouryu.net HP：<http://www.kouryu.net/>

障害者交流センター広報委員会



イメージキャラクター
「とびっきーくん」

埼玉県障害者交流センターは、障害のある人の社会活動分野における全県的な拠点として、平成2年4月に開設しました。各種相談や研修をはじめ、文化芸術活動やスポーツ活動の振興を図るための事業を総合的に展開しています。

<施設利用時間>

【午前】 9：00～12：00

【午後】 13：00～17：00

【夜間】 17：30～21：30

※スポーツ施設（屋外）～17：00

スポーツ施設（屋内）～20：30

<利用について>

障害のある方：無料

障害のない方：障害のある方の利用を妨げない
範囲で一部有料にて利用可

<休館日>

毎週月曜日及び第3火曜日

（祝日の場合はその翌日）

年末年始、施設点検日など

<個人で利用>

スポーツ施設は個人で利用することができます。

※障害のある方は初めに利用証の交付手続きが
必要です。

（身体障害者手帳、療育手帳、
精神保健福祉手帳等にて利用証を発行）

<送迎バス>

さいたま新都心駅と障害者交流センター間で
無料送迎バスを運行しています。

<団体で利用>

障害者福祉、障害者スポーツを目的とする団体
は文化施設とスポーツ施設を利用することができます。

スポーツ施設には、体育館、トレーニング室、温水プ
ール、ソフトボール場、アーチェリー場、運動場、テ
ニスコートがあります。

文化施設には、多目的ホール、音楽室、調理室、会議
室、研修室、工芸室、おもちゃ図書館、図書資料室、
福祉機器展示コーナーなどがあります。



温水プール



体育館



トレーニング室



アーチェリー場



運動場・ソフトボール場



テニスコート

ス
ポ
ー
ツ
施
設

文
化
施
設



多目的ホール



工芸室



調理研修室

無理ってあきらめずにやってみようよ！

親子水中運動サークル すずらんキッズ



すずらんキッズは、埼玉県障害者交流センターのプールで保護者を中心に活動をしている創立16年目になる団体です。活動の方針として特に重視されているのが、「子どもをコーチに預ける」のではなく「子どもと保護者がともに活動をする」ことだそうです。

現在、登録メンバーは16名。メンバー間の連絡調整や埼玉県障害者交流センターのプールの借用など、保護者の方々の熱心な運営で、1回2時間程度の活動を継続されています。水中での活動時間が2時間程度確保できていれば、前半と後半で活動の内容に変化をつけることもでき、かつ、ゆったりと行うことができるとのことでした。



コーチの駒井さんは、スイミングスクールのベビークラスで指導をされていたそうですが、3歳になると卒業しなくてはならず、「肢体不自由のある子たちが、もっと活動することができるチャンスを作るべきではないか」との考えをお持ちだったそうです。そんな折、スクールの保護者から「自分たちでグループを作ったら指導に来てくださいますか？」と相談をされ、駒井さんは、二つ返事でOK。創立に至ったそうです。

見学をさせていただいた日も、親子で一緒に楽しそうに水中活動をされていました。駒井コーチは順に活動のポイントの指導や、新たな活動の提案などの声掛けをされていました。

保護者の方によると、駒井コーチは、「これはできなくてもしょうがないよね」とか「こんなもんだよね」などとは絶対に考えない方とのことでした。創立以来、一貫して「無理ってあ



きらめずにいろいろやってみましょう」「100%無理ってことはない。どこかに光が当たるはずだよ」と言い続け、実践をされているそうです。

「うちの子は首が座ってないから…」と保護者の方が心配されていた時にも「すべて責任をもって実施するので安心してきてください」と言われ、その方たちも安心してサークルに参加をすることができ、楽しく活動を継続されているそうです。

機会があったら、ぜひ活動をご覧になってみてください。
(文責 千々和)

☆メンバーの檜平弦弥さん(高3)親子
3歳で第1期生として入会したときは、ほとんど首も座っていませんでした。1年ほどで首も座り、体もしっかりとしてきました。



活動を通してお友達もたくさんでき、みんなと旅行に行ったりと、楽しい思い出がたくさんできました。

すずらんキッズコーチ

駒井順子さん

水中運動指導士・障害者スポーツ指導員・水泳指導員(ベビー、幼児、学童、一般)



【基準該当サービス、共生型サービスについて】

居住地の近くにある高齢者向けのデイサービス等を、障がい者も利用することができるようにする制度があるのを知っていますか？ その制度は、「基準該当サービス」と、「共生型サービス」です。

基準該当サービスは、その地域において、必要な障がい者向けのサービスが足りない場合に、市町村の判断でサービスの幅を広くできる制度です。

共生型サービスは、基準該当サービスような地域による限定はなく、全国同一の基準でサービスを受けられるようにする制度です。

それぞれのサービスの例となる施設を、1つずつ紹介します。

社会福祉法人 秩父正峰会

〒369-1911 埼玉県秩父市荒川糞川1088番地 電話：0494-54-1500

《基準該当サービスを実施している社会福祉法人 秩父正峰会について》

秩父正峰会は、平成2年に設立された社会福祉法人で、秩父地域において介護保険の事業を行っています。法人理念は「やさしさ・おもいやり・あたたかさ」であり、「利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援すること」を、法人の目的としています。

秩父地域は障がい者がデイサービスを利用できる施設がきわめて少ない状況であり、行政からの相談を受けた秩父正峰会は、その状況を理解し、基準該当サービスを行える施設となりました。現在では、法人内の「荒川園」「花菖蒲・両神」「影森デイサービスセンター」の各施設で、障がい者がデイサービス等を受けられるようにしています。

《荒川園におけるデイサービスの内容》

自宅へ送迎に向かう（9：00～9：30）

施設到着後、バイタルチェックを行う

入浴サービス（ここまでが午前中）

昼食・休憩

日替わり活動（作業療法、体操、ゲーム、カラオケなど、個人に合わせた活動を行う）

おやつ時間

送迎により帰宅（16：30～17：00に自宅到着）



法人のコンセプトにより、重度の高齢者を優先的に受け入れるようにしていることから、様々なタイプの機械浴の設備が用意されています。そのため、障がいの重い人の入浴についても、その入浴設備を活かして対応することが可能です。デイサービス担当の看護師スタッフは、入所者担当のスタッフとは別に用意されています。

《花菖蒲・両神について》

花菖蒲・両神は、平成17年4月から事業を開始した施設で、特別養護老人ホーム、デイサービス等を運営しています。基準該当サービスの施設のため、障がい者の受け入れについては、サービスの登録が行われている市・町に居住している人のみ、となります。

デイサービスの内容については、先述の荒川園と同等なものになっています。また、短期入所（ショートステイ）も、個室に空きがある日であれば利用可能です。



デイサービスの活動ルームは、施設中央にある広いスペースです。ミニ運動会ができるくらいの開放的な空間です。



入浴施設は、1階と2階のそれぞれにあり、機械浴の設備が充実しています。集団浴、個別浴にも対応できます。



個室のようすです。入所施設はすべて個室になっています。ショートステイ利用時も、このような個室を利用することになります。

なお、個室に入浴設備はなく、入浴施設のある部屋に移動して入浴します。デイサービスの入浴は午前中に、入所者の入浴は午後に行われます。

現在までに、秩父正峰会の施設である荒川園と、大滝・桜の園において、障がい者のサービス利用実績があります。高齢者が多い施設ではありますが、それを気にしないのであれば障がい者の利用が可能な状況です。秩父正峰会としては、高齢者も障がい者も、命を預かるという意味ではまったく同じであるため、特に区別はしていないということです。「利用者の趣味や興味のあることをスタッフに伝えていただくことで、活動の企画に活かし、楽しく過ごすことにつなげたい」と、うかがいました。 (文責 佐藤)

社会福祉法人 秩父正峰会

荒川園 埼玉県秩父市荒川贄川1088番地

電話 0494-54-1500

花菖蒲・両神 埼玉県秩父郡小鹿野町両神薄1060番地1

電話 0494-72-8050

障害のある子の生涯

株式会社 HANA 共生型生活介護 Hana

地域密着型通所介護^{*2}・放課後等デイサービス・グループホーム・相談支援事業

〒362-0003 埼玉県上尾市菅谷三丁目8番地2

TEL 048-773-5002 FAX 048-778-8127

メール n.hirai@happy-hana.jp

平井 一光

グループホームぼっぼの誕生

障害との出会いは長男がダウン症児と診断を受けてからです。医師から「普通の子育てでいいですよ。」との話が衝撃だったのを思い出します。

次男が結婚する。自立をする。ふと長男はいつ自立するの？思いで、行政に相談するのではなく住宅メーカーに相談しました。その出会いが私の分岐点になり、地域で暮らせるグループホームをつくる。考えが決まりました。



グループホームの運営が始まると様々問題点が発生する。「こんな事が」と思うこと事が多くありました。また、グループホームの生活が最終目標ではないことを痛感する。

- ① 親が亡き後も生活できるか？
- ② 介護が始まるとどうするの？
- ③ グループホーム生活の問題点は幼い頃から積み重ねが重要

また、他にになにか？の思いがありました。

通所介護事業・共生型生活介護 Hana の誕生

障害者の方を受け入れてもらえるデイサービスが少ない事もあり、またグループホームの入居者が介護の支援を受ける事も考え、介護の内容を勉強したい思いがあり、はっぴーホーム Hana の開所になりました。現在、75歳の障害者も通所しています。

平成30年に介護保険事業所が障害者、児の通所事業の運営が出来る事になり、身体障害者の入浴の支援ができる。共生型生活介護事業所を開所しました。

現在2名の利用者が通所しています。



現行の介護保険制度上は、障害福祉サービス事業所としての指定を受けているというだけでは、介護保険サービスを提供出来る仕組みとはなっていないが、高齢者と障害児者が同一事業所でサービスをうけやすくするため、介護保険と障害福祉制度に新たに共生型サービスを位置付ける事が決まりました。

(サービス種類はホームヘルプサービス・デイサービス・ショートステイ等)

例：高齢者のデイサービスとしての指定事業所でも、共生型生活介護・放課後等デイサービスのサービスを同じ場所で提供出来る。

放課後等デイサービス Hana の誕生

グループホームの運営の中で、グループホームで暮らす為の基本的な生活習慣は幼い時からの生活の積み重ねが重要だと思い、放課後等デイサービスの支援内容に将来の自立に向けての思いを保護者に伝えようと思いました。

身体障害児の受け入れ場所が少ないので、受け入れをしてきました。また面談等を通して改めて親の悩みが果てしないことを痛感しました。

放課後等デイサービスの夏祭



相談支援事業所 Hana の誕生

障害児の子育てから、障害福祉サービス事業を立ち上げて運営をしてきて、その中で親はみんな我が子の行く末を案じているし、親がいないといけないと強く思っています。でも子供たちは意外に適応能力がすごいと思う場面に沢山出会ってきました。障害児のみんなが「自立出来る力」を持っている。親はその背中を押してあげて欲しいと思います。

また、親が子供の背中を押してあげられるように、私たちはその親の背中を押してあげられるようになりたいです。



— 働きたい思いを実現し、生活に寄与する工賃のクリエイトを目指して —

社会福祉法人 埼玉福祉事業協会
ゆずり葉

杉の子学園*あかしあの森*プリムローズ

総括施設長 高橋清子

会是 感謝・奉仕・実行

TEL : 048-625-5100 FAX : 048-625-5011

〒 331-0060

住所 さいたま市西区塚本 191-9



当法人は、障がいがあっても働きたいという利用者の思いを実現していくことと、福祉的就労という事に甘えることなく、生活に寄与する工賃の支払いができるようにするにはどうしたらよいかという事に長年取り組んでいます。

福祉の制度は流動的で様々な変化がありますが、利用者の工賃向上はなかなか進んでいません。それでも、一生懸命頑張っている利用者の、一人暮らしや自立したい思いに応えられる工賃を生み出す模索を続けています。

働きたいを実現したい

特に、障がい重い利用者や障害特性のある利用者に適した仕事を開発することは施設の使命と考えて取り組んでいます。工賃向上に取り組むことは、大人となった障がいのある人の、社会参加の促進を図る有効な手立てのツールと考え、様々な制度や支援の組み合わせの一翼として、経済的な支援を担うことで、地域生活の持続・実現をサポートして行くことを目指しています。

異業種連携とマッチング

利用者にとって、施設の友達も職員も気に入っているけれど仕事が自分には不向きなのかなと思っても、案外福祉施設は仕事の職種が少ないというのが実情です。

当法人は、一日の多くの時間を費やす働く

時間も利用者気に入って貰うには、少しでも相性の良い仕事が法人内であれば良いと様々な職種との連携、異業種連携に取り組んでいます。

*3
リサイクル業

製造業

レンタル業

おしほり

野菜

農業

*2
小売業

パルフェ・石鹸

製パン、製菓

杉の子マートの経営

異業種との連携の中に
チャンスを広げます

飲食業

レストランの経営

スポーツジム

清掃作業

弁当製造

シクラメン
観葉植物

健康業

清掃業

弁当製造業

花卉造園業

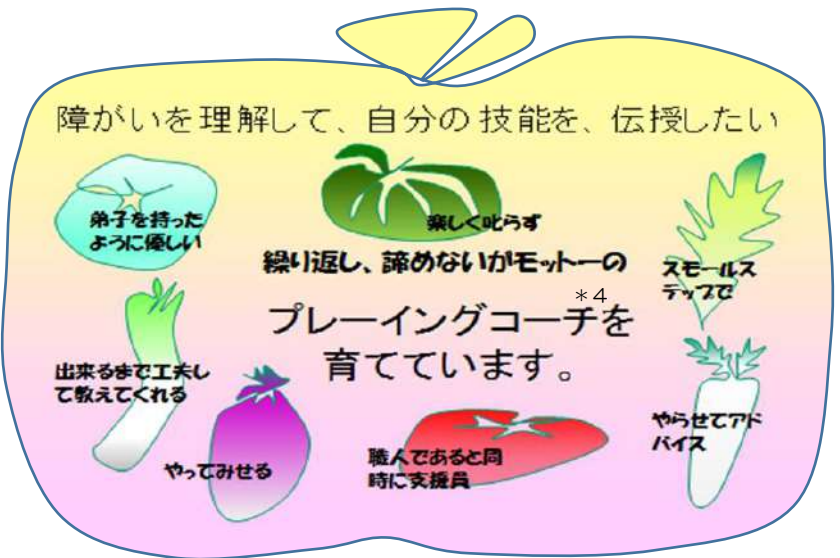


美味しくナーレ

異業種の職人さん達には、障がい者と働くと言うことには戸惑いが沢山あります。その戸惑いの壁を乗り越えると頼もしい働く仲間に出会うことができます。職人だからこそ

出来る商品等々は、高い評価と継続した販売を可能としています。法人は、その手助けをしています。また、リスクの高まる接客にはなかなか就労できないという障がいの特性に対して法人自らが、店舗経営をすることで、接客の場を作り出し、経験を高め接客への技能の習得支援をしています。

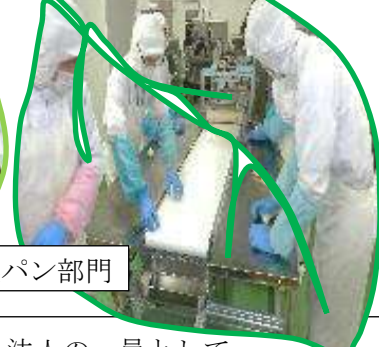
働くこと支援のイメージ



ゆずり葉



調理部門



製パン部門



クリーニング部門



リサイクル部門

ゆずり葉も法人の一員として、利用者の働きたい支援サービス提供を積極的に行っています。また、ショートサービスでは、法人内では児童を受け持ち、児童棟(定員10名)で成人との混合では無い支援を行っています。

生活のイメージ

生活は、入所タイプと通所タイプで大きく違います。しかし、個別支援計画に基づいて法人の理念でもある「整理・整頓・清潔をモットーに居心地の良い環境作り」を職員が行う生活支援サービスの提供をしています。生活の個別化・個別支援を実施しています。

宿泊型自立訓練のイメージ

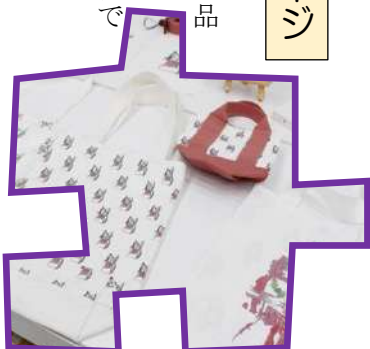
聞き慣れないかもしれませんが、期間を定めて入所タイプの施設を利用して一人暮らしと生活マナーの体験を積むことの出来る制度です。当法人では個室・トイレ・洗面所付きの部屋20床を用意して利用者の地域生活暮らしへのスモールステップ支援サービスをしています。

チャンス支援のイメージ

大きな法人になると小回りが利かないように思われる方もいますが、多機能型のメリットは、利用者が選択できる内容がより多く提供できるということです。それは、何度でもチャンスを提供できることで、チャレンジの結果に応じて継続して支援サービスを提供するということです。

デザイナーのイメージ

利用者のアート活動の作品をデザインとして活用しています。美術大学との連携で製品作りも行っています。



特別支援学校卒 → 大学進学 → 就職（相談員）

日高特別支援学校 平成 23 年度卒

東京国際大学 人間社会学部 福祉心理学科 平成 27 年度卒

社会福祉法人ともいき会 障害者生活支援センターともいき

〒350-1175 川越市笠幡1646-17

電話 049-239-3688

相談員・社会福祉士 山下真央さん

山下さんへのインタビューを通して

インタビュー担当 日高特別支援学校 進路指導主事 榊原 徹

本日は、現在、「障害者生活支援センターともいき」で相談員をしていて、社会福祉士の資格を持っている山下真央さんにインタビューをします。

榊原：山下さんは、現在、相談員という仕事について活躍しているようですが、山下さんの障害についてお話してもらってよいですか。

山下：私は先天性の股関節脱臼で、左足に下肢障害があり、歩行が難しい状態です。それで車椅子の生活を子どもの頃からしています。

榊原：日高特別支援学校の高等部に入る前は、どこで勉強していたのですか。

山下：小学校は地域の小学校に6年間、通いました。体育などは見学することが多かったのですが、他の教科はみんなと一緒に学んでいました。中学も地域の中学校に通いました。エレベーターのついていない学校で1階から4階の移動などが大変で、昇降機^{*5}を使ったりもしたのですが時間がかかり、しだいに不登校になってしまいました。

榊原：中学校時代、不登校だったときがあったのですね。では日高特別支援学校の高等部を選んだ理由は何ですか。

山下：中3の進路を考えているとき、中学校の担任だった先生に勧められて、日高特別支援学校を見学してみました。そこで、自分以外に障害を持っている人がいることと、障害の重い人がいることが分かりました。バリアフリーになっていて、自分にとって勉強がしやすいのではないかと思い、日高特別支援学校を選びました。

榊原：日高特別支援学校に入学して、感じたことは何ですか。



社会福祉法人 ともいき会
障害者生活支援センターともいき・
生活介護・短期入所施設の外観

山下：最初は、一般学校と違って戸惑いもあったのですが、先生方が個別に丁寧な対応をしてくださり、だんだん慣れていくことができました。自立活動の時間があり、私の場合は下肢の動きの確認や自分で取り組めるケアを教えてもらえるなど参考になりました。また、体験学習や運動会・文化祭、現場実習などを通して様々な経験ができ、とても良かったと思っています。

榊原：東京国際大学への進学を決めたきっかけは何ですか。

山下：高等部 2 年生のとき、身体障害者で車椅子を利用している方の講演を進路学習で聞いたのがきっかけです。それまで大学についてイメージが持てなかったのですが、大学生活について話を聞いて興味を持ちました。その後、担任の先生が大学のオープンキャンパスへ行くことを提案してくださり、一緒にいくつかの大学を見学しました。実際に行ってみると好きなことへの学びを深められる大学の授業を楽しそうに感じ、大学進学を決めました。自身に障害があることもあり、障害者福祉を詳しく学びたいと思いました。

榊原：大学の入試はどうしたのですか。

山下：先生からのアドバイスもあり、AO入試^{*6}を選びました。AO入試に向けて、志望理由の作成や面接の練習、資格取得に向けての勉強に取り組みました。

榊原：山下さんは、高等部 3 年生のとき、自動車の運転免許もとったそうですが、そのことを話してもらえますか。

山下：秋にAO入試で東京国際大学の合格が決まったので、自動車の運転免許の取得を高等部 3 年生の後半にがんばりました。運転免許の取得は、高等部 3 年生の頭からクラス担任に相談して、1 学期に鴻巣の免許センターで運転適性のチェックを受け早めに準備を進めました。近くの鶴ヶ島市にある教習所に夏休みの頃から通い始め、大学入学前に運転免許を取得できました。



障害者生活支援センターともいき内

榊原：東京国際大学の人間社会学部社会心理学科の勉強はいかがでしたか。

山下：大学では福祉の勉強をしました。大学では、それまでの学校生活とは異なり、興味のある科目について選択して、好きなように時間割を立て自由に学べる点が楽しかったです。ただ、高校までと比べると 1 時間の授業時間が 90 分と長く、長時間の座位で身体が痛くなってしまふことがあったため、ゼミの担当教授とも相談しながら、1 日の時間割を詰めすぎないようにする、適宜休憩スペースや医務室で休ませてもらうなどして、無理なく授業が受けられるように気をつけていました。

榊原：大学の卒論のテーマは何でしたか。

山下：「大学でのバリアフリーについて」という卒論を書きました。

榊原：大学のとき、頑張ったことは何ですか。

山下：社会福祉士の資格を取得したことです。

榊原：他に大学生活で印象に残ったことは何かありますか。

山下：大学には色々な学部があり、様々な学生や教授がいます。私は色々な方と出会うことが出来、勉強になりました。大学はカリキュラムを自由に組めたり出来、自由な時間を作り出すことも比較的容易だと思います。自由な時間を有意義に使うことは難しいことですが、社会に出る前に自由な時間が持てるというのは貴重なことだと思います。また障害のある自分などは、自由な時間を利用して自分のペースで大学生活を送ることができました。

榎原：今の相談支援センターの相談員という仕事は何故選んだのですか。

山下：大学生のとき、社会福祉士の資格をとるために川越市にある障害者施設「ともいき」で実習をしました。そこで出会った相談員の方から社会福祉法人ともいき会の相談支援センターである「障害者生活支援センターともいき」に非常勤の相談員の仕事があるので卒業後やってみませんかと声がかかりました。私も障害者に関連した仕事に就きたかったので、応募して入れていただきました。またピアカウンセリングにも興味があったので、相談員の仕事を選びました。

榎原：相談員として、また社会人として、心がけていることはありますか。

山下：仕事をする上で体調に気をつけています。遅刻をしない・約束した時間を守ることなどに気をつけています。また相談者に会う時や電話の対応などには、言葉遣いに気をつけています。体調のこともあり、私は勤務を非常勤で4日勤務の時短勤務にしてもらっています。



榎原：相談員の仕事をして生きがいを感じることはありますか。

山下：私も障害を持っているので、障害者の方の気持ちがより理解できると思っています。相談に来た方の気持ちに寄り添えて、気持ちが通じ喜んでもらえたときにやりがいを感じます。

榎原：今後の山下さんの目標は何ですか。

山下：ピアカウンセラーとして、今後も障害者の方の気持ちが理解できる相談員であり続け

たいです。そして相談員として経験を積み、専門性を高めて障害者の方から信頼される相談員になりたいです。

榎原：本日は、長いインタビューありがとうございました。今後も信頼される相談員を目指して頑張ってください。

山下：こちらこそ。ありがとうございました。より信頼される相談員になれるように頑張ります。

山下さんが、相談支援室で仕事をしている様子
* ピアカウンセラー
同じ悩みや障害をもつ仲間の相談に乗り、悩みや障害をその人自身で克服できるように援助する人

山下さんは大学で社会福祉士の資格を取得し、相談員という専門性の高い仕事に就きました。インタビューを終えて、職業を考える上で、社会貢献や仕事へのやりがいという点が、とても大切だと感じました。

(文責 榎原)

～私自身も障害者の親として親亡き後を常に考えてきました～
 社会福祉法人きずなの会 **きずなの里・療護園滑川**

理事長 岡田 昭一

このたび、一文をとの申し出があり大変良い機会なので、高齢の親が最後に来る施設として、思い悩んでいることを率直に書きたいと思います。障害者を育ててこられた皆様に行き過ぎた表現もあるかと思いますが、介護の限界を感じたり、何か変えていかねばと思う方々に、何かのお役に立てばと考えています。

これから先 10 年後 20 年後、私たちは幾つになりますか。 子供の年齢、親の年齢は、そして祖父母の介護も始まります。自分の両親の体調も心配になってきます。



入所施設で困っていること

親兄弟からのバトンタッチは、子供さんにとって急激な環境変化です。とても可哀想です。今は学校に行っているけど、ご飯が食べられて、排せつができますか。食べられるものは限られていませんか。食べられていない方は経験させて欲しい。誰からでも食べられますか。食事介助の支援拒否が多いです。投薬も同じですね。食事のときは、じっとしていられますか。せめて5分座ってられるように訓練しましょう。

排便、排尿の意思表示・合図・しぐさなどの対応に長時間の付きっきりが必要とか、頻回とか、一対一でできても、集団生活では限られた職員数で他の方の見守りに危険や死角になることもあり、職員を独占し気を引く行動をとる方などは入所が難しいと思われます。

いつか他人に託すことになります。今から、想定した訓練が必要です。考えて欲しいです。家庭でのその子中心の生活では、他者との生活リズムが作られていません。お母さんはなんでも施設でやってくれると思っている方が多いようです。親亡き後、最後にゆだねることをいつも想定して考え育てて欲しい。また、他の子供さんで見比べないで欲しいです。仲間づくりなどの沢山の可能性があります。

親が亡くなる前に何をしておいたら良いのか

子供さんの養育歴、通院歴、特に知って欲しいこと、各連絡先などのメモを作っておいて欲しいです。障害者手帳、保険証、年金手帳、預金通帳、受給者証、印鑑、薬、母子手帳など家族の誰もがわかるようにしておいて欲しいです。

病歴についても、成長につれて薬の見直しがされていない、精神薬を認めない、行動障害を諦めている、都合の良い医師の話信じ込む、など再構築が必要なケースも多くあります。

さらに家庭でやってきた個別対応を求めるなどがありますが、施設では家庭と同じことを行うことはできません。まずは自身の子供さんの障害を受容することが大切になってきます。

情報資源として障害者団体、協会、機関紙、公的サービス、お母さん同士の集まりなどと連絡を日頃よりとることも大切です。

親亡き後の施設として困っていること

当園では、母が亡くなり、父が亡くなり後見人の申請を誰がやるのかという事例が発生しています。以前の施設の利用料も滞り、健康保険も切れ、施設利用の契約書も有効でなくなり、市長申し立ても何カ月先かわからない方がいます。当園に入所時から「身元引受人を引き受けてくださる方はいらっしゃいますか」など再三言ってきました。しかし、確認が取れないまま親が亡くなってしまい、通院先も病名が 19 もあり障害者年金では払いきれません。医療扶助の願いも本人のみで、本人からの意思確認がとれない状態です。市長申し立ての後見人申請も立ち消えになりそうな状況です。施設相談員、地域相談センター、福祉課、などでは後見人用の診断書を用意できません。施設には判断する権利は何もなく、親族がないため施設弁護士、民間協力会社^{*7}に相談していますが、後見人^{*8}の費用は最低でも毎月 2～3 万円です。障害年金では当施設の利用料と医療費の一部支払いが精いっぱいです。市役所、福祉関連の公的機関はすべて決定してから利用可能になり、本人が一番つらい立場になってしまいます。

親の方が先に死ぬことは当たり前をわかって欲しい

滑川療護園、開所当時 50 名の保護者が 18 年後、約 7 割の方が亡くなっています。きずなの里、開園当時 50 名の保護者が 8 年後、約半数の方が亡くなっています。入所当日に亡くなった方もいます。

「兄弟に迷惑をかけたくない」という発言も両親が亡くなったとき、障害者本人の意思表示がはっきりしない場合、受診の判断を誰がするのかだけでも決めて頂きたいと思います。

いろいろな施設が地域にあります。今、子供さんに合った施設でも、いつまでその施設にいられるのか、その後のことを考えて何をして行くべきか、年代別の指標を考えて行くことは大事だと思います。「あるがままを受け止める」世の中、他人のせいなんてどこにもありません。満足も満足じゃないこともたくさんあって、人の温かさがわかるものです。「限りある人生は一生懸命生き、振り返れることが幸せ」と考えます。当法人もできるだけの支援、相談をお受けします。ぜひ、入所型施設を見にきて欲しいです。意外と楽しくやっています。イメージが変わりますよ。



グループホーム・短期入所「ねいる」

〒343-0044 埼玉県越谷市大泊 168-1

電話：048-971-6893

運営主体：非営利活動法人 結（ゆい）

施設紹介

【設置理由と経緯】

NPO 法人「結」は、越谷特別支援学校卒業後の進路先が在宅しかない時代に、保護者が立ち上げました。現在、生活介護事業を3カ所、放課後等デイサービス事業、相談支援事業、居宅介護・移動支援事業、グループホーム・短期入所「ねいる」を運営しています。「ねいる」は、同法人が運営する生活介護利用者及びその保護者の高齢化が進み、自宅での介護が困難になってきた家庭が増えてきたため、2015(H27)に定員6名で設置しました。設置当初、調査表で生活介護利用者全員の意向を伺い、利用希望者のみと面談を実施しました。男性4名、女性4名から希望がありましたが、夜間の女性職員配置が困難であったため、男性4名を入所させ、空いた2部屋を短期入所（男女受入可）として活用していましたが、後に短期入所利用の男子2名も入所したので、現在は満床となり短期入所は利用不可の状況です。NPO 法人「結」では、地域の協力者に事業所を建てていただき、賃貸契約を結んで運営しています。

【利用者の状況】

年齢	実 態	居住地	帰宅日等
46	全介助、寝たきり、車椅子移動	越谷	なし
39	〃	松伏	土曜昼～日曜夕方
38	支え歩行、四つ這い移動、食事や排泄は全介助	越谷	金曜夕方～月曜朝
35	〃	松伏	金曜夕方～日曜夕方
29	全介助、寝たきり、車椅子移動	八潮	金曜夕方～月曜朝
26	独歩、食事や排泄は自立	三郷	日曜朝～月曜朝（1～2回/月）

※日中活動場所（全員が同法人運営の生活介護事業所）への移動は各生活介護事業所の車送迎です。

※帰宅日は、御家族の都合により変更されることがあります。「ねいる」～自宅までの送迎は御家族対応ですが、送迎ができない御家庭については同法人が有償で行っています。

【日課表】

時 間	活動内容
～16:30	ねいるに帰宅
16:30～18:00	入浴(3名)
18:00～20:00	夕食
20:00～21:30	入浴(3名)
22:00～ 7:00	就寝
7:30～ 8:30	朝食
9:00～	日中活動へ

【週の利用状況】

曜日	月	火	水	木	金	土	日
利用人数	6	6	6	6	3～4	2～3	3～4
職員数	3	3	3	3	2	2	2
看護師数	0	0	0	0	0	0	0

お部屋



お風呂



【運営上の課題等】

- ・外出機会が少ないこと。
※年1回、1泊2日の旅行を実施している。
(利用者6名、職員5名)
- ・グループホーム「ねいる」では看護師配置が困難であるため医療的ケア対象者を受け入れていないこと。また、生活介護事業や放課後等デイサービス事業でも医療的ケア対象者の受入体制が整わないこと。
- ・生活介護利用者でグループホームへの入所希望が増加しているが、希望に添うことができていないこと。また、女性のグループホーム入所希望者のニーズに答えられていないこと。
- ・手厚い職員配置が必要なので経営が苦しいこと。

(文責：堀)

～ 人に寄り添い地域に寄り添う ～

社会福祉法人皆成会 生活介護・就労継続支援B型

はあもにい

施設長 宮本 英行

〒359-1152 所沢市北野2-22-8 電話：04-2947-9191

社会福祉法人皆成会は昭和55年の光の園（生活介護）の誕生から始まります。その後平成6年に所沢市立キャンパスが設立されました。当時では珍しく重症心身障害者と知的障害者の通える施設として行政の理解のもと誕生しました。はあもにいは所沢市手をつなぐ親の会が平成5年に設立し平成14年皆成会に事業移管されました。

施設外観



<新施設移転>

昨年度まで旧公民館を利用して活動してきました。施設の老朽化により新施設を建設、平成31年4月より新施設に移転しました。

<主な活動>

就労継続B型(定員 30名)

- ・企業受託作業 *⁹
- ・リサイクル作業
- ・施設外での清掃 等

生活介護(定員 20名)

- ・企業受託作業
- ・リサイクル作業
- ・製品製作 ・地域交流 等

企業受託作業では、肥料の袋詰めやクリーニングされたタオルのたたみなどを行っています。その他、所沢市より委託を受けて公民館などの公共施設から資源回収を行っています。

生活介護事業が3年目を迎えて製品制作など活動内容も少しずつ増えてきました。来年度より車いすの方の利用も予定していますのでまた新たな活動が必要となるでしょう。

どちらの事業も障害のある方の「働く・暮らす」を支えることを大切にしています。

<送迎について>

生活介護、就労継続支援B型ともに希望の方に送迎を行っています。送迎コースは所沢全域をカバーしていますが、利用する方の能力に応じて自宅近くや駅までなど様々です。送迎利用の際はご相談ください。



お風呂・トイレなど設備面も充実



受託作業(肥料袋詰め)



資源回収



自主製品(巾着)

はあもにいは平成31年4月より新施設となり、大きく生活環境が良くなりました。バリアフリーとなり車いすの方も安心して利用できます。今までは冷たいお弁当でしたが厨房設備があり温かい昼食となりました。特別支援学校での懇談会の中で車いすの方で施設の入浴設備を利用できないかとの要望があり新施設には機械浴設備を設置しました。

施設は利用者、ご家族、職員、地域の方など多くの「人」により創られています。人に寄り添い地域に寄り添うことで誰もが安心して利用できる施設を目指しています。

誰もが愛され、必要とされる世界でありたい

株式会社クリオ

就労継続支援B型事業所

カーサ・アミ

〒333-0842 埼玉県川口市前川2-10-11 2階

TEL 048-458-0993



サービス管理責任者 中田 和臣

カーサ・アミは定員20名の就労継続支援B型事業所です。

私達は、以下の言葉を胸に『障害者が活躍できる社会』を実現すべく日々、活動・支援しております。

『人間の究極の幸せは4つ。人に愛されること。人に褒められること。人の役に立つこと。人から必要とされること。働くことによって愛以外の3つの幸せは得られる。企業で働きたいと願うのは社会で必要とされて本当の幸せを求める人間の証。』

～「障害者が活躍する日本一の職場」と言われる日本理化学工業社長の言葉～

朝・夕のスケジュール

9:30～ 送迎車にて施設到着
バイタル・体操
15:25～ 帰りの準備・送迎車
にて帰宅



車椅子のまま乗車できる送迎車

- ・送迎では、車椅子のまま乗車可能な送迎車が2台運行、可能な場合はご自宅前まで送迎いたします。

- ・建物内にはエレベーターが完備しており、室内もバリアフリーです。

- ・車椅子でも利用可能なトイレ（その他2か所トイレ有）があります。

- ・体調不良時などに利用可能な静養室もあります。



障害者用トイレ



静養室

日々の活動では、ご利用者様の個々の能力や特性を把握し、話し合いをしたうえで興味のあること、やりたいことを可能な限り実現し、やりがいと日々の成長を感じていただけるよう支援させていただいております。車椅子使用の方、数名（10月現在）が利用しています。

仕事の内容は「内職の下請作業」「PC入力作業」「事務作業」「調理作業」「野菜栽培」など多岐にわたり、利用者・職員共に力を合わせ取り組んでいます。内職作業ではおかずカップの詰め込み作業を中心に、PC入力作業では献立表の入力や運転日報の入力等を行っています。

内職作業の様子



PC作業の様子



通所者様からの声 ～利用者 Kさん～

私自身、仕事に対してのやりがいを感じ、日々の成長を感じています。また、ここでは熱心に指導して下さるスタッフがいて毎日ユーマと笑顔の絶えない環境で楽しく過ごしています。とにかく百聞は一見に如かず！施設を見学に来てください！随時見学受付中です！（笑）

～よく働き よく遊べ～

社会福祉法人 埼玉のぞみ園
障害福祉サービス多機能型事業所

深谷たんぽぽ



〒366-0811 埼玉県深谷市人見2000番

TEL 048-572-1668 FAX 048-574-7013 E-mail tanpopo@nozominosono.jp



「深谷たんぽぽ」には、生活面の全面介助が必要な方から生活面のほとんどが自立している方まで、障害支援の必要程度が様々な方々が利用しています。

食品・木工等の自主生産作業、収益性の高い委託作業、一般企業などへの派遣作業を通じて、高い工賃を支給し、経済的自立の支援を目指しています。

主な行事としては、法人傘下5施設・事業所が一堂に集うレクリエーションや、秋の旅行などがあり、利用者みなさんも楽しみにしています。

【就労継続支援B型事業】(定員25名)

一日を通して作業に従事する事を原則としています。

- ①箱折班 厚紙を折り込んだ贈答用茶箱の組み立て
- ②住宅金具班 建築金物部品のカシメ加工
- ③ピッキング班 床下収納庫の組み立て用ネジの袋詰め
- ④木工班 キャンプ場等のバーベキュー用薪作り
アルミ・段ボール・新聞紙・書籍等の回収
- ⑤食品班 ガレットやクッキー等の焼き菓子*10を素材に
こだわって製造・販売
- ⑥派遣作業 JA深谷・営農センター(深谷市上敷免)において、きゅうり選別の補助作業
(夏季・冬季の3ヶ月程度を除く)
深谷はばたき特別支援学校にて清掃作業

*H30年度の平均工賃は、25,024円!!



【生活介護事業】(定員25名)



午前中は主な活動である作業を行い、午後は週3日、日常生活動作の習得や機能訓練、入浴、音楽活動、カラオケ、絵画・造形等の創造的活動やレクリエーション活動を行います。

全面介助が必要な方は、一日を通して日常生活の介護や支援等が基本となっています。

～オーガニックなバラ栽培はじめました～

新規事業として昨年度より環境保全を考えた「自然共生型農業*11」に取り組んでいます。自家農園で栽培している食用バラは、品種により香りや味、色彩の違いを楽しむことができます。

収穫した『食べられるバラ』は、栃木県の足利フラワーパークのレストラン等で、食材として利用されています。



(文責 大沢)

*1 (P.1) パラリンピック

世界最高峰の障害者スポーツ大会。起源は1948年に大戦で損傷した兵士たちのリハビリの一環として行われたアーチェリー大会で、1952年に国際大会になった。1988年のソウル大会からはオリンピックの後に同じ場所で開催されるようになった。2020年東京大会では、22競技が実施される。埼玉県出身者（埼玉パドロームアスリートで紹介）が参加する競技には、アーチェリー、陸上競技（走り幅跳び）、5人制サッカー、ゴールボール、シッティングバレーボール、卓球、トリアスロン、車いすバスケットボール、車いすラグビー、車いすテニス等がある。

*2 (P.7) 地域密着型通所介護

介護保険のサービス（障害福祉サービスは対象外）。要介護1以上の認定を受けた方が、定員19人未満のデイサービスセンターなどの施設に通って食事や入浴、排泄などの日常生活上の支援やリハビリテーションを日帰りで行うことができる。

*3 (P.9) リサイクル

1度使った資源（廃棄物）を回収することで有償回収につながることから事業所収入につながっている。内部・外部リサイクルと大きく分類できる。回収は有償買取、無償方式、機関が回収に回る等の方法がある。リサイクル品目は、紙類、アルミニウム、鉄、ペットボトル等がある。

*4 (P.10) プレーイングコーチ

社会福祉法人埼玉福祉事業協会独自の言葉として使われている。同法人では、対応できる職種の拡大を図るため、異業種連携に取り組んでいる。その際、各業種の専門的な知識・技能を持った方を職員として積極的に招いている。加えて利用者の障害特性の理解等も合わせた関わりができるように法人として育成に力を入れている。職場内のスタッフが直接業務の指導を行う点で、O.J.T(On-The-Job Training)やジョブコーチと似た意味を持つ。

*5 (P.11) 昇降機

電力などの動力によって垂直に昇降するものと定義される。階段昇降機とは、階段の昇り降りが困難な人が安全に昇り降りするための機械。1本～2本のレールを用いて階段に沿って椅子が昇り降りする。段差解消機あるいは斜行機ともいう。

*6 (P.12) AO入試

大学入試については、これまで以上に多面的・総合的に能力を評価する入試への転換が掲げられた。2020年度に行われる入試

（2021年度入試）からは、「大学入試センター試験」を廃止し、思考力・判断力・表現力を一層重視する「大学入学共通テスト」が導入される。入試区部の名称も一般入試→一般選抜、AO入試→総合型選抜、推薦入試→学校推薦型選抜と変更になる。

*7 (P.15) 民間協力会社

他企業や官庁などから専門的な分野の業務を委託される企業。

*8 (P.15) 後見人

後見人とは、未成年者に対して親権を持つ人がいない場合や、親権を持つ人がいても、財産の管理権がない時に、法定代理人として立つ人のことを指す。成年後見制度は、認知症や精神障害などで財産管理能力を失った方を対象とした制度。

*9 (P.17) 企業受託作業

「受託」とは、他者から頼まれた業務（仕事）を引き受けること。業務を委託する側と、委託契約を結ぶことによって成立する。受託した業務をさらに引き受けて実施することを「下請け」という。また、よく使われる「内職」とは、被雇用者として自宅にて軽作業等の業務全般を行うことと定義される。

*10 (P.19) 焼き菓子

福祉事業所で焼き菓子の製造・販売を手掛ける所は多い。種類も多種に渡る。代表的なものに、パン、クッキー、ガレット、サブレ、スコーン、タルト、ワッフル、パウンドケーキ、プリン、等がある。

*11 (P.19) 自然共生型農業

農薬や化学肥料を使わない、または低減するなど生物や自然環境に配慮した農業の取り組み。

*12 (裏表紙) 地域共生社会の実現

制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を目指すもの。厚労省は、地域共生社会の実現を、(1) 地域課題の解決力、(2) 地域丸ごとのつながりの強化、(3) 地域を基盤とする包括的支援の強化、(4) 専門人材の機能強化・最大活用の4つの柱を掲げている。(3)には、共生型サービスも含まれている。

埼玉県内肢体不自由特別支援学校 12 校
高等部卒業生の進路状況

年度 項目	H28	H29	H30
企業就労	9	5	3
訓練	2	0	1
訓練等給付	10	10	14
介護給付	71	67	69
地活等	0	1	1
進学	5	3	8
在宅	3	5	4
計	100	91	100

今社会は、地域住民が「我が事」として参画し、「人と人」「人と資源」が、世代や分野を超えて丸ごとつながる『地域共生社会の実現』*12に向けて動き出しています。一方で、A・Iの登場はじめ、我々を取り巻く環境は、目まぐるしいスピードで変化し、我々はその変化に適応するよう求められています。障害のある子どもたちもその例外ではありません。

この『進路のしおり』は、卒業後の生活がより充実したものとなるよう、最新の社会の動向を見据え、各機関と連携しながら、子どもたちをよく知る県内特別支援学校の教員によって作成されたものです。お子様の生涯にわたる幸せを願うご家族、また、これからの社会を力強く生き抜く生徒自身にとって、この一冊が人生の選択の一助となれば幸いです。

(和光特別支援学校長 佐々木 美智子)

「進路のしおり27号」が完成しました。

今年も各方面へ足を運び、お話を伺い冊子にまとめました。ぜひ、ご一読いただき今後の生活に役立てていただけたら、と思っています。

障がい者福祉に携わる方々の取組に新たな発見もある一方で、世の中の課題、厳しさも感じます。

東京オリンピックパラリンピックの開催が近づいてきました。日増しに社会が盛り上がっている状況です。これが良い機会となり、障がいに対する理解が少しずつでも広がること深まることを願っています。

製作に当たりましては多くの方々にご協力をいただき、心より感謝申し上げます。なお、記事に対するお問い合わせ等がございましたら、右記にある各校の編集委員までご連絡ください。

(編集委員 高橋 盛也)

【訓練】

国立職業リハビリテーションセンター、東京障害者職業能力開発校などの職業訓練機関

【訓練等給付】

就労移行、就労継続A、B型、自立訓練（機能生活訓練）などの日中活動

【介護給付】

生活介護、療養介護の日中活動や施設入所

【地域活動支援センター（地活）等】

心身障害者地域デイケア施設も含む

「進路のしおり」第27号

発行日 2020年3月16日

<編集・発行>

◇ 埼玉県高等学校進路指導研究会特別支援教育部会
肢体不自由特別支援学校小委員会

◇ 埼玉県肢体不自由特別支援学校進路指導研究会

高橋 盛也 県立和光特別支援学校
048-465-9770

堀 喜代司 県立宮代特別支援学校
0480-35-2432

榊原 徹 県立日高特別支援学校
042-985-4391

風間 順 県立川島ひばりが丘特別支援学校
049-297-7753

大沢 恵子 県立熊谷特別支援学校
048-532-3689

佐藤 勉 県立秩父特別支援学校
0494-24-1361

糸井 敏夫 県立越谷特別支援学校
048-975-2111

白鳥 武彦 さいたま市立ひまわり特別支援学校
048-622-5631

倉持 通子 富士見市立富士見特別支援学校
049-253-2820

島村 隆博 県立蓮田特別支援学校
048-769-3191

古谷 匡 県立所沢おおぞら特別支援学校
04-2951-1102

千々和一億 さいたま市立さくら草特別支援学校
048-712-0395

※「障害」「障がい」の表記について

文中では、「障害」「障がい」と表記がされておりますが、本誌では作者の意向を尊重し、そのままに編集いたしました。



埼玉県社会福祉事業団

あさか向陽園

〒351-0016 埼玉県朝霞市青葉台1-10-6

TEL 048-466-1411 FAX 048-467-4127